薬品を安全に扱う基本の約束

薬品を使う実験で、目・鼻・手を守るには、どうすればよいのだろう。それぞれの理由は何だろう

1 目：保護眼鏡をかける

なぜ？ 薬品がはねても、
目に入らない。

✕ よくない例：頭にのせたまま実験する

2 鼻：においは、手であおいでかぐ

なぜ？ 強いにおいや有毒な気体を、
一度にすいこまない。

✕ よくない例：鼻を容器に近づけてかぐ

5 皮ふや目についたら、すぐ多量の水で洗い、先生に知らせる

なぜ？ 薬品をうすめて流し、
けがを小さくする。

✕ よくない例：こする・だまっている



どの実験でも

- 使う前に、薬品の名前と性質（燃えやすい・皮ふをいためる など）を確かめる。
- 実験は立って行い、机の上を片付けておく。
- 危険な水溶液は、トレイの上で扱う。
- 取りすぎた薬品や残った薬品は、先生の指示で返す・処理する。
- 終わったら器具を洗って返し、最後に手を洗う。

3 手：ラベルを手のひら側にしてびんを持つ

なぜ？ たれた液でラベルが
よごれず、名前が読める。

✕ よくない例：ラベルを下にして注ぐ

4 使う分だけ、別の容器にとる

なぜ？ びんの中の薬品に、
ほかの物がまざらない。

✕ よくない例：残りをびんにもどす

6 使った液は、決められた容器に集める

なぜ？ 流しに流すと、
環境をよごす物がある。

✕ よくない例：流しにすてる

※ 模式図。約束は基本の例で、薬品ごとの扱い方は先生の指示で確かめる。完全な操作手順ではない。